

# 平成30年度 施策評価シート

基本目標		安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	430	高齢者が生きがいをもって暮らせるしくみをつくる
施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する
施策の目標	高齢期を迎えた区民が、地域活動や趣味、特技を活かしたボランティア活動等を通じて社会参加し、生きがいを持ち、充実感のあるセカンドライフを過ごしています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「生きがいがある」65歳以上の区民の割合									
指標名	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	72.0%	-	-	-	73.0%	-	-	-	-	75.0%
実績	71.1%									
指標名	シルバー人材センター就業延べ人員及び実就労者数									
指標名	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	延べ人員：182,883人 実就労者：1,370人	延べ人員：183,423人 実就労者：1,370人	延べ人員：183,963人 実就労者：1,380人	延べ人員：184,503人 実就労者：1,390人	延べ人員：185,000人 実就労者：1,400人	延べ人員：185,540人 実就労者：1,410人	延べ人員：186,080人 実就労者：1,420人	延べ人員：186,620人 実就労者：1,430人	延べ人員：187,160人 実就労者：1,440人	延べ人員：188,000人 実就労者：1,450人
実績	延べ人員：182,883人 実就労者：1,370人	延べ人員：185,479人 実就労者：1,272人								

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
高齢者の就労支援については、墨田区シルバー人材センターが担っているが、多様になる就業希望者のニーズに応えきれなくなっている可能性がある。これに対し、同センターは、「エンジョイ家援隊」の新設や労働者派遣事業への参入等の対応策を実施しており、区としてもこれを支援することが必要である。 また、増加する高齢者が社会の担い手としても活動できる様々な場や団体を広げていく必要がある。	H28	425,761
	H29	461,824
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	各事業ともに継続の必要性があると判断する。民間企業との合同交流会の周知や情報の提供など、各事業の拡充・自主的な運営を支援し、より多くの高齢者を社会の担い手とする。

## 4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
		(2) 現状維持とする。
		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
元気高齢者施設運営、シルバー人材センター・老人クラブ支援、生きがい事業など、既に地域に認知され、活用されている事業が多い。高齢者が社会の担い手としてより活発に活動できるよう、現行の事業を継続しながら、実施事業の内容や視点などを見直し効率的な運営を図る必要がある。		
【今後の具体的な方針】		
元気高齢者施設の事業内容の見直し、シルバー人材センターの就労拡充の対応策や老人クラブ支援の会員増強への側面支援、生きがい事業の事業内容の見直し検討を実施する。		

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	介護ボランティア・ポイント制度	1,046	2,664	3,710	ボランティア活動を行う元気な高齢者を増やすことで、高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進を図る。	200	現状維持
						195	平成29年度
2	セカンドステージ支援事業	2,895	1,776	4,671	会社等を定年退職した元気高齢者(おおむね55歳以上)に対して、セミナーや講座を通してセカンドステージにおける暮らし方やライフワークの見つけ方に関するヒントを得る機会を提供する。また、シニア人材バンクで高齢者が活動できる場を提供する。これにより、高齢者が地域において支える側として生きがいを持って活動していくことが期待される。	150	改善・見直し(効果測定)
						128	平成29年度
3	元気高齢者施設「いきいきプラザ」管理運営費	75,491	3,552	79,043	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また、健康体操や筋力トレーニング講座などの介護予防事業を実施している。	65,000	現状維持
						65,948	平成28年度
4	高齢者福祉センター運営経費(立花ゆうゆう館)	35,736	1,776	37,512	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また介護予防トレーニングやウォーキング教室などの介護予防事業を実施している。	54,000	現状維持
						50,494	平成29年度
5	高齢者福祉センター運営経費(梅若ゆうゆう館)	59,457	1,776	61,233	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また介護予防トレーニングやウォーキング教室などの介護予防事業を実施している。	46,000	現状維持
						51,605	平成28年度
6	老人クラブ運営助成事業	35,858	5,329	41,187	区内老人クラブ(H30.4.1現在、団体数149、会員数12,296人)に対して助成を行うことで、クラブの活動を充実させ、会員の生きがいを高める。	53,800	改善・見直し
						62,507	平成28年度
	老人クラブ連合会助成事業	11,916	888	12,804	事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。また、当該連合会は、各単位老人クラブの運営に関して、各種助言を行う機能を有している。	22,000	改善・見直し
						20,823	平成29年度
7	姉妹区提携交流ゲートボール大会	422	888	1,310	本事業を実施することにより、参加者の健康増進といきがいの向上が図れている。	140	改善・見直し
						140	平成28年度
8	シルバー人材センター運営助成	107,997	1,776	109,773	補助を行うことで、同法人の安定的な運営が可能となり、地域高齢者の就業支援が促進される。	183,423	現状維持
						165,479	平成29年度
9	にこにこ入浴デー事業費	82,744	2,664	85,408	公衆浴場を高齢者のふれあいの場とし、高齢者同士のつながりを強め、生きがいづくりを支援する。	293,000	現状維持
						288,275	平成29年度
10	「湯処・語らい亭」事業費	1,068	888	1,956	公衆浴場でのイベント開催による世代間交流をはかり、高齢者の生きがいづくりを行う。	975	現状維持
						888	平成29年度
11	長寿者に対する祝金の贈呈事業費	26,264	2,664	28,928	長年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うことで生きがいを創出する。	4040	改善・見直し
						3936	平成29年度
12	長寿マッサージ事業費	4,918	1,776	6,694	マッサージを行うことにより高齢者が心身ともにリラックスしその健康に資するとともに、高齢者の引きこもり防止のきっかけとなる。	1,780	改善・見直し(効果測定)
						1,795	平成29年度
13	ふれあい給食事業助成	2,299	888	3,187	保育園児との世代間交流を通して、高齢者の孤独感が解消され、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。	90	改善・見直し
						92	平成28年度
14	すこやか長寿夫婦表彰経費	1,094	2,664	3,758	長年人生をともに過ごし、金婚を迎えた夫婦を讃え、表彰することが高齢者の励みに繋がる。	130	改善・見直し(効果測定)
						213	平成28年度

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	介護ボランティア・ポイント制度					1		
<b>事業概要</b>	介護保険法に規定する介護予防事業として、高齢者が介護保険施設でボランティア活動を行った場合にポイントを付与する制度を実施。高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進を図るとともに、介護保険施設のサービス提供を支援している。					主管課・係（担当）		
						介護保険課管理・計画担当 5608-6924		
<b>施策への関連性</b>	ボランティア活動を行う元気な高齢者を増やすことで、高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進を図る。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	元気な高齢者が、ボランティア活動を通して地域貢献や社会参加、自身の介護予防を行いたいというニーズはある。 理由：本制度登録人数が増加傾向にあるため。（平成27年182人 平成28年195人 平成29年195人）							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	65歳以上の介護サービスを受けていない元気な高齢者に対し、ボランティア活動の動機付けを行う事業として、区が実施する必要がある。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標 (活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>受入施設</b>				<b>単位</b>	<b>施設</b>
		最終目標値	目標年度	／	基準年(H28)	H29	H30	H31
		65	37	目標	44	49	51	53
				実績	47	49		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	55	57	59	61	63
		実績					65	
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	高齢者がボランティア活動を行うことができる施設の選択肢が増えることによって、より活発な活動を期待できるようになる。							
	<b>目的に対する指標 (成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>登録人数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	／	基準年(H28)	H29	H30	H31
		224	37	目標	200	200	203	206
			実績	195	195			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	209	212	215	218	221	
	実績					224		
指標の選定理由及び目標値の理由								
本制度に登録する高齢者の人数の推移により、事業の目的の達成の度合いを測ることができる。								
<b>財政面 〔決算額〕 (単位：千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,256	1,046						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 28年度予算から、ポイント上限額を増額した。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
介護保険法第115条の45に基づき、積極的に介護予防を行う必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
幅広い年齢層のボランティアが活動しており、受入施設も増加している。		5	4	5	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
現状において、最も効果的な実施方法であると考える。					
中間・最終年度の講評	高齢者のボランティア活動を促進し、地域貢献や社会参加を通じて、高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進に効果を発揮している。				
今後の方向性	事業を継続し、高齢者のボランティア活動を奨励する。				

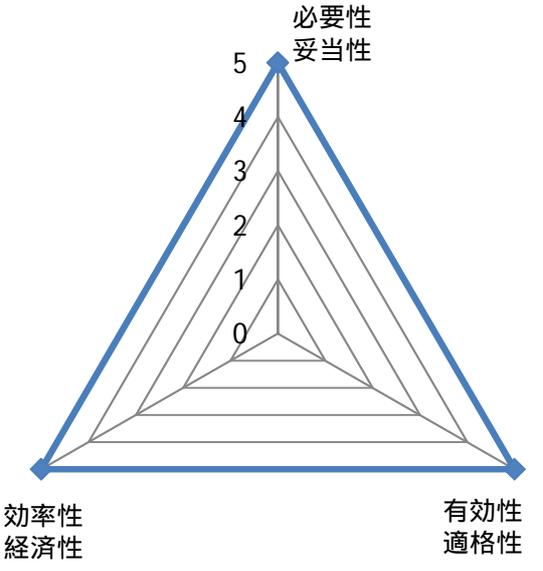
# 平成29年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	<b>セカンドステージ支援事業</b>					2		
<b>事業概要</b>	元気なシニア世代の方が、地域の中で培ってきた経験や特技を活かしながら生きがいを持って社会参加できる環境づくりを目的とする。以下の事業を外部団体に委託して実施する。 セカンドステージセミナーの開催、シニア人材バンクの運営、シニア向け情報誌の発行、シニア向けメールマガジンの配信、生きがい講座の開催					<b>主管課・係（担当）</b>		
						高齢者福祉課支援係		
							03-5608-6168	
<b>施策への関連性</b>	会社等を定年退職した元気高齢者(おおむね55歳以上)に対して、セミナーや講座を通してセカンドステージにおける暮らし方やライフワークの見つけ方に関するヒントを得る機会を提供する。また、シニア人材バンクで高齢者が活動できる場を提供する。これにより、高齢者が地域において支える側として生きがいを持って活動していくことが期待される。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」の質問に対し、「是非参加したい」または「参加してもよい」と回答した方が56.1%おり、区民のニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	事業委託先（現在はてーねん・どすこい倶楽部）は、当該団体が発足して以来、継続してセカンドステージ支援事業を担っており実績がある。また、各事業の窓口として区内事業者や区民に広く周知されているため、今後も現在の委託先が事業運営していくことが望ましい。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標（活動指標）</b>	<b>指標</b>	<b>実績報告</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		12	37	目標	12	12	12	
				実績	12	12		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	12	12	12	12	12	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業委託先（現在はてーねん・どすこい倶楽部）に毎月の実績報告書を提出してもらい、活動内容を明らかにすることで事業の安定的な運営を図る。							
	<b>目的に対する指標（成果指標）</b>	<b>指標</b>	<b>シニア人材バンク派遣件数</b>				<b>単位</b>	<b>件</b>
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
150		37	目標	150	150	150		
			実績	136	128			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		150	150	150	150	150		
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
シニア人材バンクの派遣は、地域において支える側としての活動であり、高齢者の生きがいに満ちた暮らしに繋がる。								
<b>財政面〔決算額〕（単位：千円）</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,914	2,895						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 例年、ほぼ一定である。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から、区民のニーズは高いと言える。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
委託先に実績報告をさせることで、それぞれの事業の運営状況を明らかにしている。必要に応じ委託先と協議し、事業の有効性を把握している。		3	4	3	3
<b>3 効率性・経済性</b>		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
セミナー及び講座を開催することで地域活動参加へのきっかけを提供し、同時にシニア人材バンクの派遣により活動の場を提供している事業は他には無い。					
中間・最終年度の講評	セミナーについては、好評を得ている。今後はシニア層の価値観の多様化に対応できるような提供コンテンツ等が必要である。				
今後の方向性	事業の充実に向けて、事業委託先には、今後一層、多様なニーズへの対応を求める。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	高齢者福祉センター運営経費（立花ゆうゆう館）						4	
<b>事業概要</b>	平成6年11月墨田区高齢者福祉センター条例により設置。平成18年度から指定管理者制度を導入。第1期は墨田区社会福祉事業団（平成18年4月1日から平成21年3月31日まで）第2期（平成21年4月1日から平成24年3月31日まで）、第3期（平成24年4月1日から平成29年3月31日まで）、第4期（平成29年4月1日から平成34年3月31日まで）、はNPO法人てーねん・どすこい倶楽部が指定管理者である。						主管課・係（担当）	
							高齢者福祉課相談係	
							03-5608-6171	
<b>施策への関連性</b>	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また介護予防トレーニングやウォーキング教室などの介護予防事業を実施している。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動、介護予防を目的とした筋トレ・ストレッチ体操を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されており、利用者数も着実に増加している。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	施設の性格上、利益を目的としたものではないため、民間での施設の運営は極めて難しい。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標（活動指標）</b>	<b>指標</b>	<b>モニタリング実施回数</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	H37	目標 実績	3 3	3 3	3 3	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	3	3	3	3	3	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区の指定管理施設として、適切に施設が管理運営されていることを定期的を確認する必要があるため。							
	<b>目的に対する指標（成果指標）</b>	<b>指標</b>	<b>年間延べ利用者人数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
57,000		H37	目標 実績	56,400 53,297	54,000 50,494	55,000 56,000		
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標		57,000	57,000	57,000	57,000	57,000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
一人でも多くの利用者があれば、それだけ高齢者にとって有意義な施設となり、元気で生きがいに満ちた高齢者の暮らしを支援できたことになるため。								
<b>財政面〔決算額〕（単位：千円）</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	34,497	35,736						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 おおむね横ばい				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
引きこもり防止のための余暇活動や介護予防を目的とした体操など、社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されている。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している	効率性 経済性		有効性 適格性	
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
トレーニングやウォーキング教室などで介護予防事業を積極的に展開しており、多数の高齢者の生きがいづくりに貢献している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
立花ゆうゆう館の講座への参加を生きがいの一つとしている方も多数おり、高齢者同士の仲間づくりや介護予防の機会を与えている。					
中間・最終年度の講評	無料で利用できる施設の利点を生かし、多くの元気高齢者が、様々な面で社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知しており、利用者数も安定している。				
今後の方向性	施設が担うべき社会的役割（就労支援、仲間づくり等）や、利用者のニーズに対応した事業を取り入れ、さらに利用者の満足度の向上に努めていく。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	老人クラブ運営助成事業					6		
<b>事業概要</b>	昭和40年 墨田区老人クラブ助成要綱を制定					主管課・係(担当)		
	昭和60年 特別事業助成金を追加					高齢者福祉課支援係		
	平成12年 助成金額を減額					03-5608-6168		
<b>施策への関連性</b>	区内老人クラブ(H29.4.1現在、団体数149、会員数12,296人)に対して助成を行うことで、クラブの活動を充実させ、会員の生きがいを高める。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	老人クラブは、営利を目的とした団体ではなく、会員から徴収する会費と区からの助成金を主な財源としているため、自主的に財源を獲得することは困難である。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>補助金交付件数</b>				<b>単位</b>	<b>件</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		158	37	目標 実績	154 152	150 149	151	152
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標 実績	153	154	155	156	157	158
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	交付件数の増加は、区内老人クラブの増加を意味する。クラブが増加することで、高齢者が活動する場が増える。							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>老人クラブ活動回数</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		54600	37	目標 実績	53800 53791	53800 62507	53900	54000
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標 実績		54100	54200	54300	54400	54500	54600	
指標の選定理由及び目標値の理由								
活動回数の増加は、老人クラブが活性化していることを表す。老人クラブの活性化は、加入している高齢者の生きがいにつながるものと考えられる。								
<b>財政面〔決算額〕(単位:千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	36,593	35,834						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 老人クラブ数、会員数の増減により変動する。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
老人クラブは、自主的に財源を獲得することが困難であるため、補助が不可欠である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
高齢者の生きがいづくりに寄与している。		5	4	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
会員が12,296人おり、廃止・見直しの影響はかなり大きい。					
中間・最終年度の講評	老人クラブ数・会員数ともに減少傾向にはあるが、加入率については23区トップクラスである。				
今後の方向性	ただし、活発な活動ができるかどうかは会員数に左右されることから、会員増強のための老人クラブのあり方の見直しや入会対象者（60歳以上）のニーズ把握が必要である。会員数が増加したクラブに対してインセンティブを与える仕組みの構築や、入会数が十分でない団塊世代に対する入会勧奨、団塊世代のニーズの調査研究等の実施を検討していく。				

# 平成30年度 補助金評価シート

補助金 名称	老人クラブ運営助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区老人クラブ助成要綱						高齢者福祉課支援係	
事業概要	昭和40年 墨田区老人クラブ助成要綱を制定 昭和60年 特別事業助成金を追加 平成12年 助成金額を減額						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ  代替可能性の状況（区が実施する必要性等）  老人クラブは、営利を目的とした団体ではなく、会員から徴収する会費と区からの助成金を主な財源としているため、自主的に財源を獲得することは困難である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	補助金交付件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		158	37	目 標	154	150	151	152
				実績	152	149		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	153	154	155	156	157	158
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	交付件数の増加は、区内老人クラブの増加を意味する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	老人クラブ活動回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		55600	37	目 標	53800	53800	53900	54000
				実績	53791	62507		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	54100	54200	54300	54400	54500	54600
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
活動回数の増加は、老人クラブが活性化していることを表す。 老人クラブの活性化は、加入している高齢者の生きがいにつながるものと考えられる。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	36,593	35,834						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 老人クラブ数、会員数の増減により変動する。				
施策への 関 連 性	区内老人クラブ（H29.4.1現在、団体数149、会員数12,296人）に対して助成を行うことで、クラブの活動を充実させ、会員の生きがいを高める。							

1 必要性・妥当性		5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由

老人クラブは、自主的に財源を獲得することは困難であるため、補助が不可欠である。

2 有効性・適格性		5	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確

判断理由

高齢者の生きがいづくりに寄与している。

3 効率性・経済性		4	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑である	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		

判断理由

会員が12,296人おり、廃止・見直しの影響はかなり大きい。

<p>【評価結果】</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">改善・見直し</p>	
--	--

中間・最終年度の講評	老人クラブ数・会員数ともに減少傾向にはあるが、加入率については23区トップクラスである。
今後の方	ただし、活発な活動ができるかどうかは会員数に左右されることから、会員増強のための老人クラブのあり方の見直しや、対象者（60歳以上）のニーズ把握が必要である。
向	会員数が増加したクラブに対してインセンティブを与える仕組みの構築や、入会数が十分でない団塊世代に対する入会勧奨、団塊世代のニーズの調査研究等の実施を検討していく。

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	老人クラブ連合会助成事業					6		
<b>事業概要</b>	墨田区老人クラブ連合会からの助成金交付申請に基づき、助成金を交付する。					主管課・係(担当)		
						高齢者福祉課支援係 03-5608-6168		
<b>施策への関連性</b>	事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。また、当該連合会は、各单位老人クラブの運営に関して、各種助言を行う機能を有している。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等) 当該団体は、各クラブからの分担金と区補助金を主な財源としており、安定的な団体運営のためには、区の補助が不可欠である。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>墨老連関係事業数</b>				<b>単位</b>	<b>事業</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		95	37	目標	95	95	95	
				実績	93	93		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	95	95	95	95	95
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由 事業数が多ければ、会員の参加機会が増加する。							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>墨老連関係事業参加者数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
22,000		37	目標	22,000	22,000	22,000		
			実績	21,639	20,823			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由 高齢者の閉じこもり防止の観点から、参加者数は多ければ多いほど望ましい。								
<b>財政面〔決算額〕(単位：千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	11,864	11,916						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 単位老人クラブの団体数、事務局人件費の金額により変動する。				

<b>1 必要性・妥当性</b>													
区民ニーズの有無	ある												
代替可能性の有無	ない												
区が実施すべき強い理由があるか	ある												
判断理由 当該団体は区内149の老人クラブの連合体であり、会員数は12,272人を数えるため、区民ニーズは高いと考えられる。													
<b>2 有効性・適格性</b>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要性 妥当性</th> <th>有効性 適格性</th> <th>効率的 経済性</th> <th>評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果	5	4	4	4
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率的 経済性	評価結果						
5	4					4	4						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	満たしていない												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある												
判断理由 事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。													
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">改善・見直しの上継続</p>											
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない												
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある												
判断理由 1万人を超える会員があり、事業の見直しによる影響は大きい。													
中間・最終年度の講評	昨今、会員数・クラブ数ともに減少傾向にあり、会員の増強が求められているが、墨田区民の老人クラブ加入率は、依然として都内トップクラスである。その一端は、連合会が担っている。												
今後の方向性	老人クラブがリーダーシップを発揮し、会員を増強できるよう、連合会を通じて支援する。												

# 平成30年度 補助金評価シート

補助金 名称	老人クラブ連合会助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区老人クラブ連合会助成要綱						高齢者福祉課支援係	
事業概要	墨田区老人クラブ連合会からの助成金交付申請に基づき、助成金を交付する。						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	当該団体は、各クラブからの分担金と区補助金を主な財源としており、安定的な団体運営のためには、区の補助が不可欠である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	墨老連関係事業数				単 位	事業
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		95	37	目 標	95	95	95	95
				実績	93	93		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	95	95	95	95	95	95
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業数が多ければ、会員の参加機会が増加する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	墨老連関係事業参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		22,000	37	目 標	22,000	22,000	22,000	22,000
				実績	21,639	20,823		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
高齢者の閉じこもり防止の観点から、参加者数は多ければ多いほど望ましい。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	11,864	11,916						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 単位老人クラブの団体数、事務局人件費の金額により変動する。				
施策への 関 連 性	事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
当該団体は区内149の老人クラブの連合体であり、会員数は12,296人を数えるため、区民ニーズは高いと考えられる。				
2 有効性・適格性			5	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
事務局運営費や事業運営費を助成するにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
1万人を超える会員があり、事業の見直しによる影響は大きい。				
【評価結果】				
<h1>現状維持・拡充</h1>				
中間・最終年度の講評	昨今、会員数・クラブ数ともに減少傾向にあり、会員の増強が求められているが、墨田区民の老人クラブ加入率は、依然として都内トップクラスである。その一端は、連合会が担っている。			
今後の方向性	老人クラブは、地域活動の貴重な担い手であるため、各クラブの意見を吸い上げるなど、リーダーシップを発揮し、会員増強を推進するため、今後も連合会を支援する。			

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	姉妹区提携交流ゲートボール大会					7		
<b>事業概要</b>	昭和52年 台東区と姉妹区提携 昭和57年 第一回姉妹区ゲートボール大会開催 平成14年 出場チームを各区20チームから、16チームに減じた。 平成18年 出場チームを各区16チームから、12チームに減じた。 平成26年 出場チームを各区12チームから、10チームに減じた。					<b>主管課・係(担当)</b>		
						高齢者福祉課支援係 03-5608-6168		
<b>施策への 関連性</b>	本事業を実施することにより、参加者の健康増進といきがいの向上が図れている。							
<b>必要性・ 妥当性</b>	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)  数少ない台東区との提携交流事業である。 台東区との各種調整等、区が行う必要がある。							
<b>有効性・ 適格性</b>	<b>手段に 対する指標 (活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>大会の実施回数</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1	37	目標 実績	1 1	1 1	1 1	
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	年に一回、安定的に事業を実施する。							
	<b>目的に 対する指標 (成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>出場者の数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
140		37	目標 実績	140 140	140 140	140 140		
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		140	140	140	140	140	140	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
事業の規模を維持し、参加者の生きがいづくりを支援する。								
<b>財政面 〔決算額〕 (単位：千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	220							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 参加者数に増減がない限り、予算額に大きな変動はない。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	少ない又は減少傾向				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
数少ない台東区との提携交流事業である。台東区との各種調整等、区が行う必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
ゲートボール競技者の数少ない練習成果発揮の場となっており、参加者の健康増進及び生きがいの向上につながっていると考える。		2	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
運営については、両区老人クラブ会員・ゲートボール協会会員が無償で行っており、経費は会場使用料、設営費等必要最小限に抑えている。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	台東区との提携交流事業が数少ない中、参加者からのニーズも高いことから、今後も事業を継続させる必要がある。				
<b>今後の方向性</b>	本事業を今後も継続させるために、墨田台東両区、両区老連、両区ゲートボール協会と足並みを揃え、参加者の拡大を検討する。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	シルバー人材センター運営助成					8		
<b>事業概要</b>	昭和56年 補助事業開始 平成2年 社団法人墨田区シルバー人材センターと名称変更 平成23年4月 公益社団法人化 平成29年4月 労働者派遣事業開始					主管課・係(担当)		
						高齢者福祉課支援係		
						03-5608-6168		
<b>施策への関連性</b>	補助(人件費の一部、管理費の一部、向島・緑作業所運営経費)を行うことで、墨田区シルバー人材センターの安定的な運営が可能となり、地域高齢者の就業支援が促進される。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	同法人の財源は、区からの補助金を主としており、安定的な法人運営のためには、区の補助金が不可欠である。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>会員数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,880	37	目標	1,798	1,800	1,810	1,820
				実績	1,798	1,721		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	1,830	1,840	1,850	1,860	1,870	1,880
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	就労拡大のためには、まずは入会者を増やす必要がある。							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>就業延べ日人員</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
188,000		37	目標	182,883	183,423	183,963	184,503	
			実績	184,477	165,479			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		185,000	185,540	186,080	186,620	187,160	188,000	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
会員の就業拡大を表す数値であるため。								
<b>財政面〔決算額〕(単位：千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	101,873	107,997						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 事務局職員の給与支給額により変動する。				

<b>1 必要性・妥当性</b>													
区民ニーズの有無	ある												
代替可能性の有無	ない												
区が実施すべき強い理由があるか	ある												
判断理由													
高齢者の就労支援は、国を挙げて取り組んでいる課題である。センターの安定的な運営には区の補助が必要不可欠である。													
<b>2 有効性・適格性</b>		<table border="1"> <tr> <td>必要性 妥当性</td> <td>有効性 適格性</td> <td>効率的 経済性</td> <td>評価結果</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果	5	5	5	5
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率的 経済性	評価結果						
5	5					5	5						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	満たしている												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある												
判断理由													
就労支援の促進は、地域高齢者の生きがい向上につながる。													
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;"><b>現状維持の上継続</b></p>											
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない												
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある												
判断理由													
労働者派遣事業に新規参入し、地域高齢者の就業が拡大している。													
中間・最終年度の講評	同法人は、エンジョイ家援隊の新設（平成28年度～）、労働者派遣事業への参入（平成29年度～）等地域高齢者の就業拡大に向けて、様々な打開策を行っており、多くの会員が活躍している。												
今後の方向性	平成29年度に開始された労働者派遣事業が軌道に乗るように、団体の経済的な支援を続けるとともに、区報やケーブルテレビを活用したPRや、民間事業者との連携の推進等を行う。												

# 平成30年度 補助金評価シート

補助金 名称	シルバー人材センター運営助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	公益社団法人墨田区シルバー人材センター補助金交付要綱						高齢者福祉課支援係	
事業概要	昭和56年 補助事業開始 平成2年 社団法人墨田区シルバー人材センターと名称変更 平成23年 4月 公益社団法人化 平成29年 4月 労働者派遣事業開始						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	同法人の財源は、区からの補助金を主としており、安定的な法人運営のためには、区の補助金が不可欠である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	会 員 数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,880	37	目 標	1,798	1,800	1,810	1,820
				実 績	1,798	1,721		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	1,830	1,840	1,850	1,860	1,870	1,880
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	就労拡大のためには、まずは入会者を増やす必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	就 業 延 べ 日 人 員				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		188,000	37	目 標	182,883	183,423	183,963	184,503
				実 績	184,477	165,479		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	185,000	185,540	186,080	186,620	187,160	188,000
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
会員の就業拡大を表す数値であるため。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		101,873	107,997					
		H35		H37	〔予算の傾向〕 事務局職員の給与支給額により変動する。			
施策への 関 連 性	補助（人件費の一部、管理費の一部、向島・緑作業所運営経費）を行うことで、墨田区シルバー人材センターの安定的な運営が可能となり、地域高齢者の就業支援が促進される。							

1 必要性・妥当性		5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由

高齢者の就労支援は、国を挙げて取り組んでいる課題である。センターの安定的な運営には区の補助が必要不可欠である。

2 有効性・適格性		5	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確

判断理由

就労支援の促進は、地域高齢者の生きがい向上につながる。

3 効率性・経済性		5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし
目的に対する区の負担割合が適切か	適切		

判断理由

法人に自主・自立的な運営を促すために、補助金額は必要最小限に抑える必要がある。

<p>【評価結果】</p> <p><b>現状維持・拡充</b></p>	
-------------------------------------	--

中間・最終年度の講評	補助を行うことにより、円滑な団体運営につながっているものと考えられる。
今後の方向性	法人の自主・自立的な運営を促しつつ、東京都の補助金等を活用しながら、今後も必要な範囲で補助を行っていく。

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	にこにこ入浴デー事業費					9		
<b>事業概要</b>	特別養護老人ホーム入所者を除く高齢者が決められた日に無料または半額で入浴することで、地域の住民や世代間の交流を図ることを目的とした事業である。昭和50年に入浴券を交付。昭和54年に所得制限設定。平成6年に菖蒲湯、ゆず湯、敬老の日をふれあい入浴とし、平成18年に家庭の日、ふれあい入浴を半額自己負担とする。平成20年に所得制限を撤廃した。					<b>主管課・係(担当)</b>		
						高齢者福祉課支援係 03-5608-6168		
<b>施策への関連性</b>	公衆浴場を高齢者のふれあいの場とし、高齢者同士のつながりを強め、生きがいづくりを支援する。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	平成28年度墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、にこにこ入浴デー事業について、「利用したことがない」が一番多くおよそ60%である。一方で、利用したことがある人は約30%であり、一定の需要があるといえる。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	高齢者の入浴料金分を区が負担する形であり、民間事業者や団体等が実施することは難しいと考えられる。区の独自事業であり、特別養護老人ホーム入所者を除く全高齢者を対象にし、区内全公衆浴場の協力のもと実施していることから、都や国の事業として実施することも難しい。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>実施回数</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2,000	37	目標 1,400	1,800	2,000	2,000	
				実績 1,407	1,811			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標 2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	実施回数が多いほど、高齢者のふれあいの機会創出につながると考え活動指標に選定した。また、目標値については、H29年度の最大実施回数が1,865回、H30年度以降は2,033回であり、それぞれ浴場の定休日などで実施しない場合を考慮し設定した。なお、この数値は1年を52週とし算出している。 目標値の修正について...H29年度は年度途中で浴場数に変動があったため、H29年度を含め目標値の修正を行った。							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>延べ人数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
294,000		37	目標 290,000	293,000	294,000	294,000		
			実績 293,654	288,275				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標 294,000		294,000	294,000	294,000	294,000	294,000		
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
人数から事業の効果を推測することができる考え成果指標とした。H28年度の1回あたりの利用者数の平均は約208人であり、高齢者人口の将来推計を参考としながら今後の平均利用者数を算出した。この算出した数値を活動指標の目標回数に乗じて成果指標の目標値を設定した。 目標値の修正について...H29年度途中の制度変更に伴い、H29年度以降の目標値を修正する。(H29年度の制度変更後の平均利用者数(約147人)をH30年度以降の目標実施回数に乗じ算出する。また、H29年度目標値も実績を考慮し修正した)								
<b>財政面(決算額)</b> (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	90,202	82,744						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 浴場数が減少傾向にあり、それに伴い予算も減少傾向にある。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
区民ニーズは約30%と一定の需要がある。代替可能性については上述のとおりないと考え。高齢者の引きこもりを防止し生きがいがづくりを支援するという観点から、区が実施する理由があると考えられる。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
高齢者のふれあいの場創出という観点から施策に合致していると考え。平成29年度で延約30万人が利用していることから、コストに対する成果が得られていると考え。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
類似事業はなく、実施工程は、平成29年7月1日から無料で入浴できる曜日を1日増やすことで改善を図った。多くの利用者が利用していることから波及効果は大きい。					
中間・最終年度の講評	高齢者のふれあいの場を創出することを目的として実施しており、無料で入浴できる曜日が増えたことから好評である。今後も事業の周知を進め、より多くの方が利用できるようにすることが必要である。				
今後の方向性	事業を継続し、より多くの高齢者が利用できるよう、公衆浴場をふれあいの場として活用していく。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431 元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>						
<b>事務事業</b>	「湯処・語らい亭」事業費	10						
<b>事業概要</b>	区内の開店前の銭湯でイベントを実施し、高齢者の世代間交流を図る。	主管課・係(担当)						
		高齢者福祉課支援係 03-5608-6168						
<b>施策への関連性</b>	公衆浴場でのイベント開催による世代間交流をはかり、高齢者の生きがいづくりを行う。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	平成28年度の日常生活圏域ニーズ調査において、若い人に自分から話しかけることがない人の割合は約25%であり、高齢者の4人に1人は若い人に話しかけることがないことがわかる。このことから、公衆浴場を世代間交流の機会として設定することには、一定の必要性があると考えられる。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	高齢者の世代間交流の場を設ける必要性から、区が各公衆浴場に依頼し委託している。各浴場が自主的にイベントを開催することが理想であるが、経費等もかかるため、事業の必要性から区が補助をすることで実施する。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>実施回数</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		96	37	目標	92	92	93	93
				実績	92	89		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	94	94	95	95	96
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多く実施することで、世代間交流の機会を設ける。最終目標値をH28年度実績の約0.5割増しである96回に設定し、H29年度から段階的に増やすことを目標とする。 目標値の修正について...H29年度途中で浴場数に変動があったため、目標値を修正する。							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>延べ参加人数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
1,018		37	目標	975	975	986	986	
			実績	977	888			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	996	996	1,007	1,007	1,018	1,018
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
より多くの方が参加することで、世代間交流を図ることができる。目標値については、28年度の1回あたりの参加人数の平均が10.6人であり、実施回数の目標値にあわせ算出した。 目標値の修正について...活動指標を修正したことに伴い修正する。								
<b>財政面(決算額)(単位:千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,104	1,068						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 一定である。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須で裁量余地なし				
判断理由					
現状では類似の事業はなく、世代間交流の場の設定には一定の需要があることを考慮すると、区が実施すべき理由があると考えられる。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
世代間交流の場の設定という点で事業の目的が施策に合致していると考えられる。		4	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
類似事業はないが、実施工程やコストについて改善を検討していく必要がある。延1,000人近く参加しており一定の波及効果があると考えられる。					
中間・最終年度の講評	地域活動の拠点の一つとして定着してきていることから、さらに各種事業の周知をしていく必要がある。				
今後の方向性	世代間交流や国際交流を深める役割も取り入れながら、事業を継続する。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431 元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>						
<b>事務事業</b>	長寿者に対する祝金の贈呈事業費	11						
<b>事業概要</b>	墨田区長寿者祝金贈呈事業実施要綱（昭和63年度） 区内に居住している最高齢者並びに百歳、米寿及び喜寿の高齢者の長寿を祝福して、長寿者祝金を贈呈する。	主管課・係（担当）						
		高齢者福祉課支援係 03-5608-6168						
<b>施策への関連性</b>	長年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うことで生きがいを創出する。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ 平成28年度に墨田区内在住の65歳以上の高齢者を対象に実施した「日常生活圏域ニーズ調査」では、「現状のまま実施した方がよい」が全体の64%程度となっており、高齢者の要望は高い。しかし、贈呈対象に近い高齢者のみの調査結果となるため、64歳以下のニーズを把握する必要がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 年々高齢者の平均寿命が延びており、対象者数が増加している。贈呈対象年齢を上げる、または品物の贈呈にする等、代替の可能性はあり、事業のあり方を検討する必要がある。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標（活動指標）</b>	<b>指 標</b>	<b>チラシ発行部数</b>				<b>単 位</b>	<b>枚</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		26,400	37	目標	26,400	26,400	26,400	26,400
				実績	26,400	26,100		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	26,400	26,400	26,400	26,400	26,400	26,400
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由 贈呈の趣旨や方法をあらかじめ周知することにより、不審という理由からの辞退者をなくしたり、効率よく祝い金の配布を行うため。なお、周知については高齢者みまもり相談室が発行しているみまもり便りによる。							
	<b>目的に対する指標（成果指標）</b>	<b>指 標</b>	<b>贈呈者数（最高齢・百歳・米寿・喜寿）</b>				<b>単 位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
4,687		37	目標	3,808	4,040	4,054	4,017	
			実績	3,780	3,936			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		3,872	3,333	4,070	4,752	4,773	4,687	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由 贈呈することを目的としているため、贈呈者数とした。（実績は死亡、転出等により変動してしまう。）								
<b>財政面〔決算額〕（単位：千円）</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	25,490	26,264						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 高齢者人口が年々増加しているため、予算額も増加傾向にある。				

<b>1 必要性・妥当性</b>									
区民ニーズの有無	ある								
代替可能性の有無	不十分								
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり								
<b>判断理由</b>									
平成28年度に実施した「日常生活圏域ニーズ調査」では、「現状のまま実施の方がよい」が全体の64%程度となっており、高齢者の要望が高い。しかし、高齢者人口の増加傾向も鑑み、贈呈年齢層の引き上げや、実施方法の検討の余地はある。									
<b>2 有効性・適格性</b>									
事業の目的が施策に合致しているか	合致している								
指標は目標値を満たしているか	満たしていない								
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある								
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	有効性 適格性				
目標値は、各贈呈基準日のおおむねの人数としているため、死亡・転出等があると実績値が減少してしまう。しかし辞退者を除き、ほとんどの対象者に贈呈ができているため、成果は十分あると考える。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	評価結果				
		3	4	4	4				
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>							
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない								
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある								
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある								
<b>判断理由</b>									
現在日本の平均寿命の男女平均は約83歳であり、「長寿者に贈呈をする」という趣旨から、事業対象者の選定を見直す検討の余地はある。また、喜寿・米寿は民生委員が自宅訪問し贈呈を行っているが、高齢者人口の増加に伴い配布の負担が大きくなる。また、各地区の高齢者数により負担も異なるため、改善の余地はある。									
中間・最終年度の講評	長寿者祝金は、多くの贈呈者に喜ばれ、長寿を目指す張り合いになっているという意見が多い。 また、一人暮らしの高齢者等と顔を合わせるよい機会となっている。								
今後の方向性	今後とも支給対象者は増加することが予想される。幅広い年齢層の区民のニーズを把握し、適切な事業体系、あり方を検討していく必要がある。								

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	長寿マッサージ事業費					12		
<b>事業概要</b>	各地域の長寿室の外、高齢者福祉センター等の計13施設に利用登録をしている高齢者を対象に実施している。 施術については、墨田区視覚障害者福祉協会の協力のもと有償ボランティアとして実施し、障害者の社会貢献の一端を担う事業となっている。					主管課・係(担当)		
						高齢者福祉課支援係		
	03-5608-6168							
<b>施策への関連性</b>	マッサージを行うことにより高齢者が心身ともにリラックスしその健康に資するとともに、高齢者の引きこもり防止のきっかけとなる。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	定期的に長寿室を訪れ、施術を楽しみにしている高齢者がいる。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	障害者の社会貢献の一端を担っている事業でもあるため、区が継続して行う必要性がある。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指標</b>	<b>実施回数</b>				<b>単位</b>	<b>回</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		445	37	目標	456	445	445	
				実績	456	454		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	445	445	445	445	445	445
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	実施回数が多いほど、高齢者の健康増進の機会創出につながる。目標値は、実施可能最大数は456回であるが、445回とする。(理由: マッサージ実施施設が、建替え等での閉館や大雪等の天候不順により実施ができないことがあるため。)							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指標</b>	<b>利用者数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
1,780		37	目標	1,824	1,780	1,780		
			実績	1,799	1,795			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		1,780	1,780	1,780	1,780	1,780	1,780	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者の人数から事業の効果を判断する。本事業は13施設19床で、一床あたり4名が施術を受けることができる。目標値は、活動指標(実施回数)の最大値とした。(理由: マッサージ実施施設が、工事等での閉館や大雪等の天候不順により実施ができないことがあるため。)								
<b>財政面〔決算額〕(単位: 千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	4,956	4,918						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 減少傾向				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
障害者の社会貢献の一端を担っている事業でもあるため、区が継続して行う必要がある。高齢者の健康増進に資する、または引きこもり防止の手段としても有効である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
障害者の社会貢献の一端を担っている事業としても有効である。		3	4	2	3
<b>3 効率性・経済性</b>		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	未検討				
実施工程やコストに改善の余地がないか	未検討				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
毎年一定数の利用があり、高齢者の引きこもり防止に寄与しているため、地域社会の活性化に繋がる。					
中間・最終年度の講評	マッサージ施術により、高齢者の健康増進に寄与している。同時に、墨田区視覚障害者福祉協会の会員である障害者の社会貢献の一端を担う事業ともなっている。				
今後の方向性	施設の建替え等により、会場が使えなくなる。施術者の高齢化が進んでいる等から、多角的な視点で事業のあり方を検討していく。				

# 平成30年度 補助金評価シート

<b>補助金名称</b>	長寿マッサージ事業に係る団体損害保険						主管課・係（担当）	
<b>根拠法令</b>	27墨福高第1655号						高齢者福祉課支援係	
<b>事業概要</b>	長寿マッサージ事業の施術において、施術師が区民に損害を与えた場合に、速やかに保障することを目的として、各施術師が団体損害保険に加入している。施術の保障により、区民が安全に施術を受けることができる。						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年	
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	保険の加入は施術をするうえで不可欠であると考え、現状代替可能性はないと考える。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標（活動指標）</b>	<b>指標</b>	<b>施術登録者数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		19	37	目標	17	19	19	19
				実績	17	19		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	19	19	19	19	19	19
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	現在施術者名簿に登録している施術者数を目標値とした。							
	<b>目的に対する指標（成果指標）</b>	<b>指標</b>	<b>加入者数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		13	37	目標	15	13	13	13
				実績	15	13		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	13	13	13	13	13	13
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
現在施術者として施術をしている者のうち、自身で加入しているため不要な者を差し引いた数を目標値として設定した。（理由：H29年度は、さらに2人の者が自身で保険に加入していたため目標値を13人とした。）								
<b>財政面</b> 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	46	43						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 一定である。				
<b>施策への関連性</b>	保険に加入することによって、区民が安心して施術を受けることができる。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
区民が安心して施術を受けるために必要である。				
2 有効性・適格性			5	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
実費弁償であり、適切な金額である。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切			
判断理由				
煩雑な手続きではなく、費用も妥当なものである。				
【評価結果】				
中間・最終年度の講評	対象者が高齢者であることから、安心して事業を実施するためには、保険の加入が必要である。			
今後の方向性	引き続き、万が一の事故に備えて、保険の加入を支援する。			